

伝統を
次の世代に
つなぐ

おぢやんしょインタビュー②

雪ありて縮あり

千数百年前のいにしえから、今日まで脈々と受け継がれてきた重要無形文化財「小千谷縮と越後上布」。形の有るものは、古びも壊れもしますが、形の無い技が、人から人へと伝えられる限り、千数百年前と同じ新しいものが生まれ続きます。平成21年9月30日には、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の無形文化遺産に登録されました。日本の染織技術としては第一号となります。

技術を若い世代に、
伝えていくことが使命です

越後の自然の厳しさに、
寄り添うような美しさです



織りの講習会では、居座機（いざりばた）織りはもちろん、糸の糊付けや撚りかけ、おさ通し、ちぎり巻きなどを、11月から翌年の3月まで100日間講習します

緯糸（よこいと）に強い燃（より）をかけ「しば」というシワを出すことで生まれるシャリ感が特徴の麻織物「小千谷縮」。原料の苧麻（ちよま）栽培から糸作り、染色・拵作り、機巻き・製織、雪晒し・仕上げまで、30以上の手仕事の積み重ねから生まれる高級織物です。高校を卒業し2年間の修業後、家業の山岸織物を継いだ山岸良三さんに小千谷縮の技術伝承についてお話を伺いました。

山岸さん 越後上布・小千谷縮布技術保存協会は、小千谷の自然・風土・人々に育まれた小千谷縮の伝統を次世代に受け継いでいくこと、昭和42年より伝承者養成事業に取り組みんでいます。また平成23年より開催している小千谷縮製作体験講座には市内外からも応募があり、少しずつですが着実に次の世代への伝統技術の受け渡しが進んでいます。

山岸さん 伝承者養成講習会（織り部門）のため、当社の一室を提供しています。みなさん仲よく意欲的に取り組んでくれているので頼もしい限りです。地味で単調な作業ばかりですが、じっくり覚えて基礎を身につけてもらいたいですね。話は変わりますが、着物というのは女性の別の面を引き出してより美しく引き立たせるものだと思います。そうした着物の良さと和服の文化が見直されてきています。とはいえ、不況も相まって着物需要の減少は続いています。業界全体としてどう需要増を狙っていくかが課題。すべて手仕事で一年がかりで仕上げる重要無形文化財「小千谷縮」は、かなり高価になります。今後は、伝統的工芸品「小千谷縮」を洋服・インテリアなど他分野への商品展開やイベント参加などで、小千谷縮の希少性と芸術性、機能性を積極的にアピールしていきたいと考えています。



小千谷縮の特徴は、その希少性と洗練された手作業による技術を駆使して織り上げられていることです。独特のシャリ感が魅力で、軽くて通気性に富み、蒸し暑い日本の夏に最適な最高級の生地です。



小千谷市総合産業会館サンプラザの織物工房「織之座」では、小千谷縮や小千谷縮の展示や機織りの実演が見られ、織りの体験（有料）もできます。



山岸織物では、手仕事に魅力を感じ、伝統技術の継承に積極的に取り組む、若い後継者が元気に働いています。



山岸良三さん（山岸織物代表、小千谷織物伝統工芸士会副会長、越後上布・小千谷縮布技術保存協会副会長など）



準備段階として、苧積（おう）み（糸を手作業でより合わせる）された糸を丹念に整えています。

小千谷の織物の素晴らしさを伝えていくために

越後の麻布は古くから高い評価を得ていました。江戸時代には幕府御用となり、魚沼地方の一大産業となりました。時は移り、この貴重な技術を守り続けるために小千谷と塩沢の両産地によって技術保存協会が設立され、昭和30年には国の重要無形文化財総合指定第一号の指定を受けました。以来、越後上布・小千谷縮布技術保存協会では重要無形文化財の技術の伝承に努め、昭和42年より伝承者養成事業「苧積みく糸づくり」部門、48年より織り部門、さらに平成23年より拵く模様付け部門に取り組んでいます。

To convey the splendor of Ojiya's textiles.

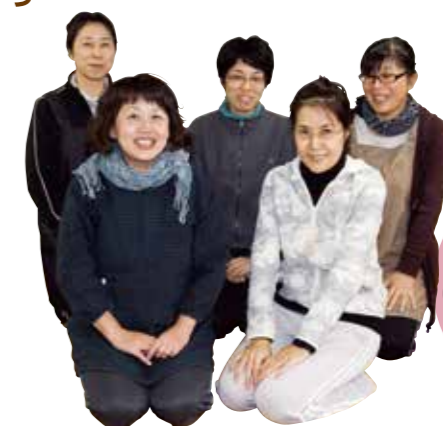
Echigo's linen has had a high reputation since the olden days. In the Edo period, it was favored by the Shogunate, and linen became a great industry of the Uonuma region. As time passed, an association for the preservation of skills was established by two production region, Ojiya and Shiozawa, for the preservation of the precious skills. In 1955, they became the first to be listed on Japan's important cultural properties. Since then, the Association for the Preservation of Echigo Jofu and Ojiya Chijimi has been working to pass on the skills of the important cultural properties, and had established the <yarn making> division training future craftsmen in 1967, and the weaving division in 1973. Since 2011, it has been working on the <plash pattern dyeing> division.



国指定重要無形文化財となっている小千谷縮・越後上布の世界に誇る技術を後世へ残していくために、毎年市内外から受講者を募り小千谷縮製作体験講座を開催するなど、啓発に努めています。

Chijimi exists for there is snow.

'Ojiya Chijimi and Echigo Jofu' are important intangible cultural assets that have been passed down from one thousand several hundred years ago. Things that have shape become old and decay, but as long as intangible skills are passed on from person to person, new things will continue to be created, just as they did one thousand several hundred years ago. On the 30 September, 2009, they were listed as intangible cultural properties by the UNESCO. They are the first Japanese dyeing techniques to be listed.



平成26年度
いざり織技術講習会
（小千谷地区）の指導者と
受講生のみなさん